

【松村主宰の俳句】

余寒

松村五月

冬の陽を賜りことば惜しみおり
あたたかき子宮をもちて雪女郎
空低く冬の帽子が赤過ぎる
あかときの忘れられたる桜貝
オムレツに塩と胡椒と囀と
桜鯛泪のあとのありにけり
水鳥の低く飛びおり多喜二の忌
人はみな大木の下春隣
新宿のコインロッカー余寒かな
春二番父が泣いたり笑ったり